

甲慰式（寺岡弥三郎）

短歌 亡き人を終の別れと弔えど

心は消えずありし面影

奄然 夢の如く 幽明を隔つ

定めなきの 人生 限り 無きの 情

骨肉 親朋 皆 席に 列し

粘香 三拝 泣いて 声を 呑む

解説 葬儀に参列したときの心を述べた詩。

語釈 ※奄然 〓 物事が急に起こるさま。息が今にも絶えそうなきま。※幽明 〓 死後の世界と、現在の世界。冥土と現世。※隔 〓 間にあつて両者を離す。※骨肉 〓 親子、兄弟など血縁関係にある者。肉親。※親朋 〓 親しい友人。親友。※粘香 〓 持続する仏前にくゆらす香。線香。※三拝 〓 三度拝礼すること。

通釈 君が急に逝去し、今は幽明を隔っているのだろう。人生には定めがなく、限りも無い。肉親、友人が席に着き、線香を差し上げ、三拝し泣きたい気持ちを抑え声を呑んでしまう。